

令和7年度 第2回 看護学科 教育課程編成委員会 議事録 概要

1. 開催概要

日時： 令和8年2月17日（火） 15:00～16:00

場所： 5階 カンファレンスルーム

出席者：

教育課程編成委員出席者

山口県看護協会 会長

セントヒル病院 看護部長

看護学科卒業生

教職員出席者

校長

副校長

学科長

書記

2. 議題と報告内容

令和7年度の教育課程に基づく取り組みと評価、および令和8年度の教育計画について説明が行われ、全員一致で承認された。

3. 主な質疑応答・意見交換

(1) キャリア教育と看護師像の形成

- ・学生が将来の看護師像や軸を形成できるよう、1年次から段階的な支援を行っている。
- ・実習先の看護部長による講話や、3年生の先輩・卒業生からの生の声を聞く機会が、学生の動機付けやキャリア像構築に大きな効果を上げている。
- ・実習を通して、学生が人と人とのつながりの中で自己肯定感を得て成長する姿が見られる。

(2) 職業理解とモチベーションの維持

- ・入学後に看護の現実（排泄ケア等）にギャップを感じる学生もいるため、入口の段階で「看護の魅力」を伝える教育に注力している。
- ・中学校・高校段階からの正しい職業理解が、入学後の離脱防止に重要である。

(3) 現場で求められる実践力とコミュニケーション

- ・病院側の委員からは、看護技術は就職後に1年かけて教えるため、基礎知識をしっかりと持ってきてほしいとの意見があった。
- ・看護協会の委員からは、チーム医療において「人とコミュニケーションが取れること」「話が聞けること」が極めて重要であり、学生主体のクラス運営などがその基礎作りにな

ると指摘された。

- ・卒業生の委員からは、現場では「わからないことをわからないと言えること、調べたり聞いたりできること」が大切であるとの助言があった。

(4) 教育課程の工夫と課題

- ・領域横断科目： 発達段階（小児・成人・老年）の視点を入れ、バラバラの知識を統合して解釈できるよう事例検討やグループワークを工夫している。
- ・国家試験対策： 1 年次の解剖生理や病態の理解不足が課題となっており、基礎部分の強化に次年度も取り組む。
- ・入学前教育： 学習習慣の維持に加え、立体的・視覚的な理解を助ける工夫（体の構造の切り貼り作業など）や、クラスメイトとの関係性作りを取り入れている。

(5) 3 年制と 4 年制の比較

- ・3 年制の学生は、明確に「看護師になりたい」という志を持って入学してくる傾向があり、実践への適応能力が高い場合も多い。
- ・教育年限の差よりも、個人の資質やコミュニケーション能力、協働の姿勢が成長を左右する。
- ・日本看護協会は医師のタスクシフト等を見据えた 4 年制化を推進しているが、3 年制の強みや今後の在り方については継続的な議論が必要である。

4. 次回予定

令和 8 年度 第 1 回委員会：10 月中旬以降に開催予定。